

アンケート調査結果のまとめ

1) アンケート調査の概要

配布対象と抽出方法	松江市居住者 18歳以上 2000人（年齢、地域の居住割合に応じ住民基本台帳から無作為に抽出）
調査期間	令和元年7月16日（火）～ 令和元年8月5日（月）
調査方法	郵送配布 郵送回収

2) 回収結果

回答数	730通
回収率	36.5%

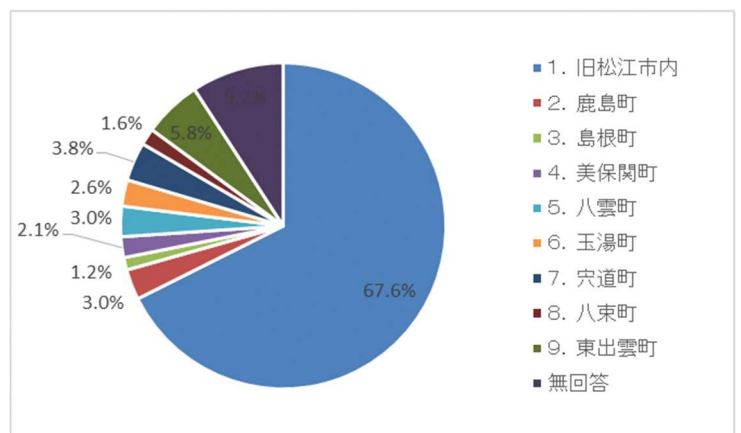
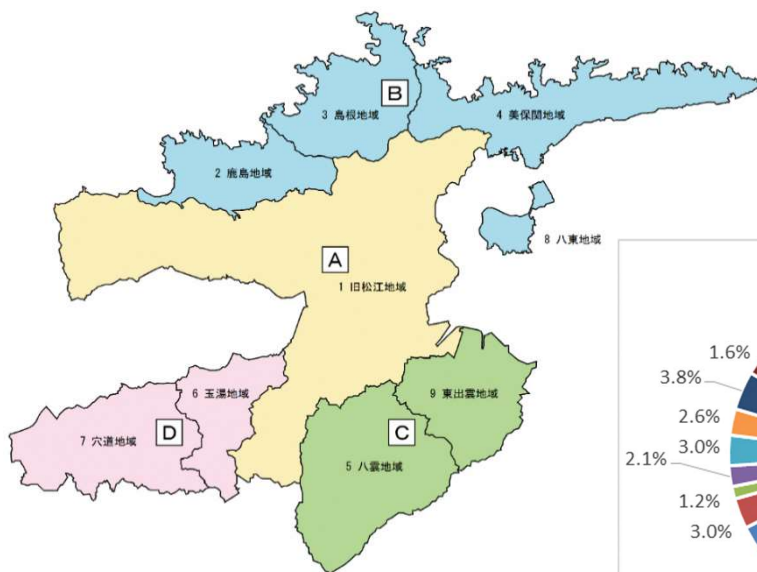
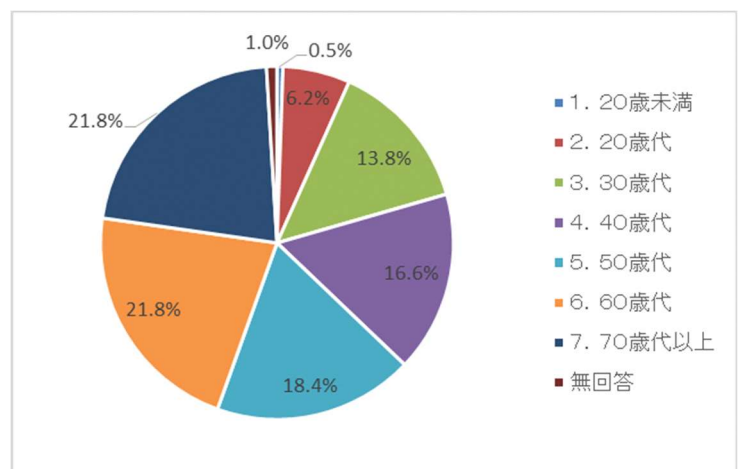
3) 調査結果のまとめ

●問1～3 回答者の属性

性別は女性が56.8%、男性が42.2%であった。年齢は、50歳代、60歳代、70歳代以上が約2割、約20歳代以下のは1割以下と若年層は少ないものとなっている。

また、居住地については、下図のように9地域に区分した。旧松江市が最も多く67.5%、次いで東出雲町の5.8%、穴道町3.8%となっており、旧松江市以外は非常に少ない結果である。

なお、地区別集計に当たっては、サンプル数が非常に少ないため、下図のA～Dの4地区にまとめ、地区別の集計を行っている。

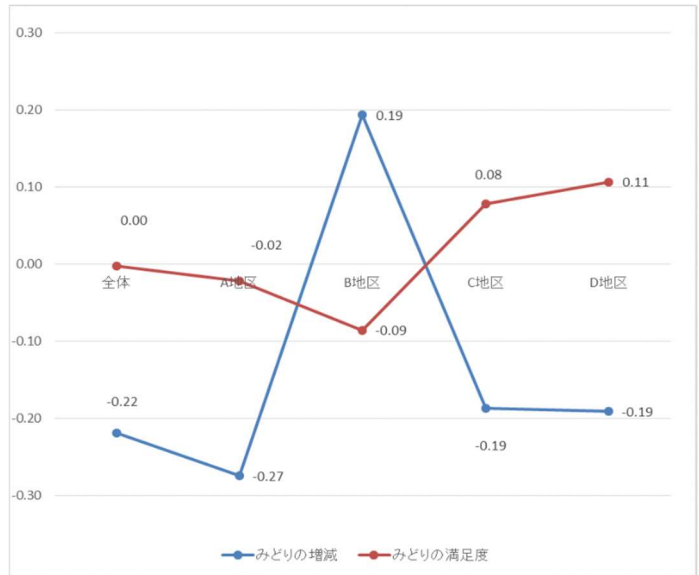


●問4, 5 緑の変化と満足度

緑の増減については、全体としては減少となっている。中でも旧松江市が減ったとする層が最も多い

一方、北部・八東地区では増加したとする層が多いものとなっている。

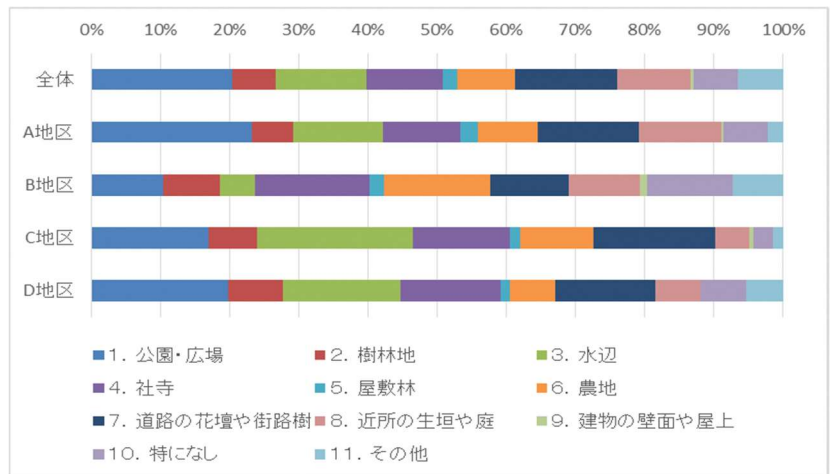
緑の満足度（地域の魅力を高めているか）については全体としては拮抗しているが、緑が増えていると評価しているB地区で不満足度が最も高く緑の量と必ずしも一致していないものとなっている



※5段階評価 +2、+1、0、-1、-2 を与えた加重平均によるスコア

●問6 住まいの周りの緑で「心地よい」「好ましい」ところと感ずるところと公園など

全体では「公園・広場」が最も多く次いで「道路の花壇や街路樹」「水辺」となっている。全体傾向と比較して、B地区で「社寺」及「農地」がC、D地区で「水辺」が多いものとなっている。



●問7 松江らしさを感じる「みどり」について

「松江城（周辺を含む）」との回答が圧倒的に多い、次いで「宍道湖」が多い。その次には「松江総合運動公園」「北公園」「末次公園」「風土記の丘」が多く挙げられていた。

また、施設では「県立美術館」があがっている。

松江城や宍道湖は周辺の景観や環境を含めて回答されており、地域的な魅力をまもり、向上させていくことが必要と考えられる。

回答を区分し多く取り上げられている場所は次のとおりである。

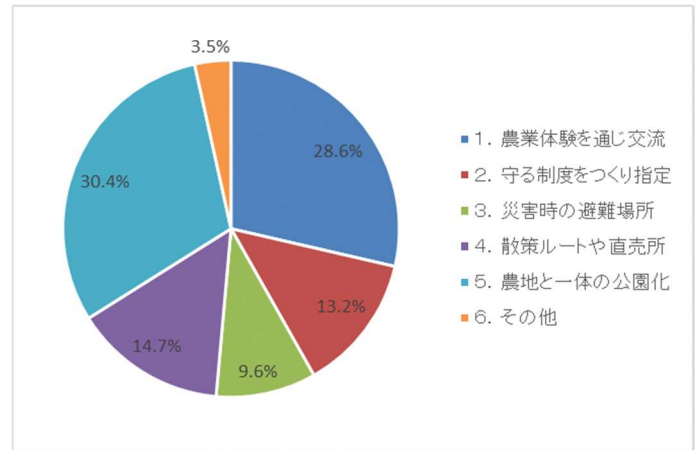
道路	公園	自然（水辺）	河川	自然	松江城	歴史	公共施設・建物
街路樹	松江総合運動公園	宍道湖	堀川	島根半島	松江城	風土記の丘	県立美術館
国道9号	白鷺公園	嫁が島	大橋川	北山	松江城山公園	月照寺	学校
チェリーロード	北公園	中海	玉湯川	嵩山	塩見縄手	神魂神社	由志園

●問8 「日ごろ「みどり」の中で楽しむ主な余暇活動」について

現在の活動としては散歩や景色、友人と遊ぶなど気軽に楽しめる活動が各年齢層を通じて高いが、70歳代以上では農業体験が現在やっている活動の上位に上がっている。

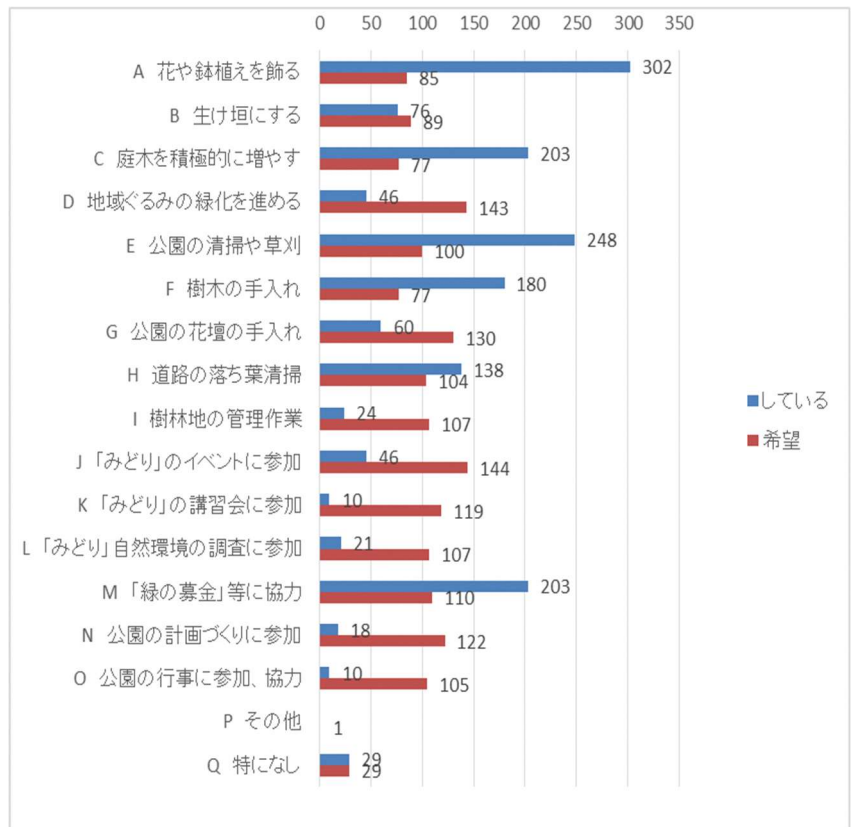
今後の活動としては、年齢が若いほど「キャンプ、バーベキュー」「健康づくり」など動的な活動や体験的な活動、高いほど学習、観察などの活動が高い傾向にある。

●問9 「農地をまもり、活かすための取り組み」(2つ選択)については、「農地と一体の公園化」及び「農業体験を通じ交流」のが他の倍以上の回答率を得ており、農地を野外レクリエーションの場として活用することが保全を図る上で望まれている。



●問10 「みどり」豊かなまちづくりのために、協力していることと今後協力したいこと

については現在の活動としては「花や鉢植えを飾る」「庭木を増やす」「樹木の手入れ」など自宅等で可能な活動が多いと共に「公園の清掃や草刈」「道路の落ち葉清掃」の公共空間の管理作業にも多く協力している。なお、「緑の募金」への協力も多くの人が協力している。今後の協力意向としては均等化しているが、「地域ぐるみの緑化」「公園の花壇の手入れ」など参加型の活動とともに、イベントや講習会計画づくりなどソフト的な項目の意向が現状と比べ高くなっている。



●問 11 「市内でよく利用する公園」または「よかった公園」

全体としては、「北公園」が最も多く、次いで「松江総合運動公園」、
地区別では上位5つを次表に示している。居住地から行きやすいところで、子供と一緒にみ
んなで楽しめるところが選択されている。

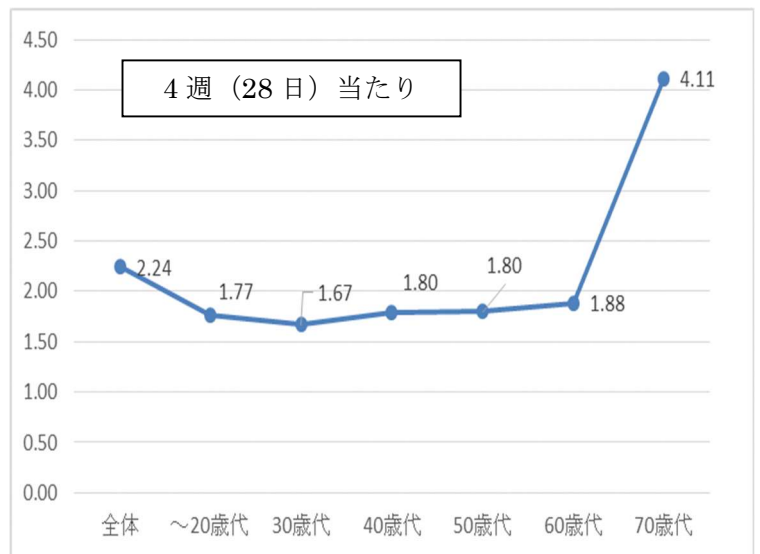
A地区	B地区	C地区	D地区
北公園	北公園	北公園	ふるさと森林公園
松江総合運動公園	松江総合運動公園	松江総合運動公園	松江総合運動公園
城山公園	城山公園	城山公園	城山公園
白潟公園	深田公園	ふるさと森林公園	— 回答数1のため割愛
菅田公園	ふるさと森林公園	親水公園	— 回答数1のため割愛

●問 12 利用頻度について

利用頻度については、年齢別に利用頻度に応じ月別に換算（毎日28回/月めったに利用しないは0.5/月のように）し、加重平均を行ったものが右図である。

60歳代まではほぼ横ばいで、70歳代～は毎日利用する人が増えるため平均利用回数は多くなっている。

逆に毎週利用する層は70歳代を除き若い年齢層ほど高くなっており、休日子ども連れでの利用が多いものと推測される。なお、地区別ではA地区で毎日利用する人が多く、身近な場所に公園があることが要因となっていると考えられる。

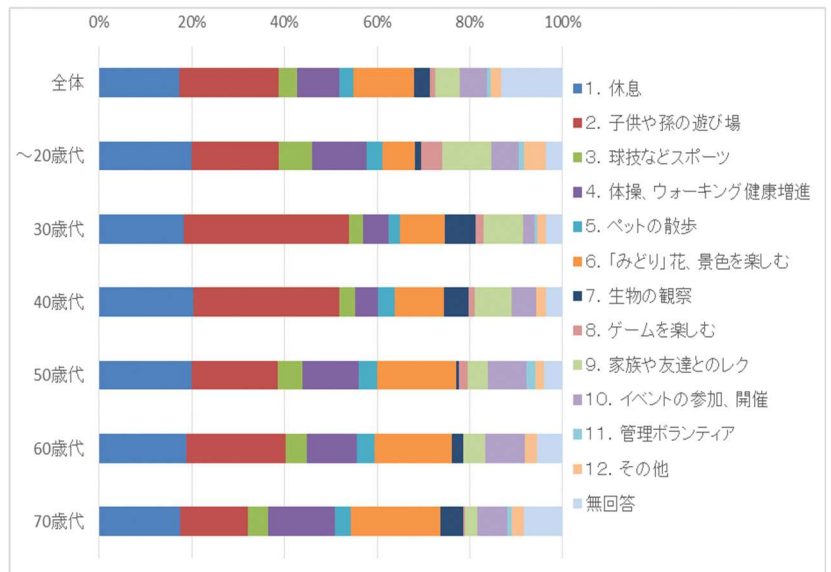


●問 13 公園での活動につて (M. A)

「子供や孫の遊び場」「休憩・休息」は各年齢層とも比較的高い割合で選択されている。

「みどり」、花、景色を楽しむ割合は年齢層が高くなるほど選択率が高い。

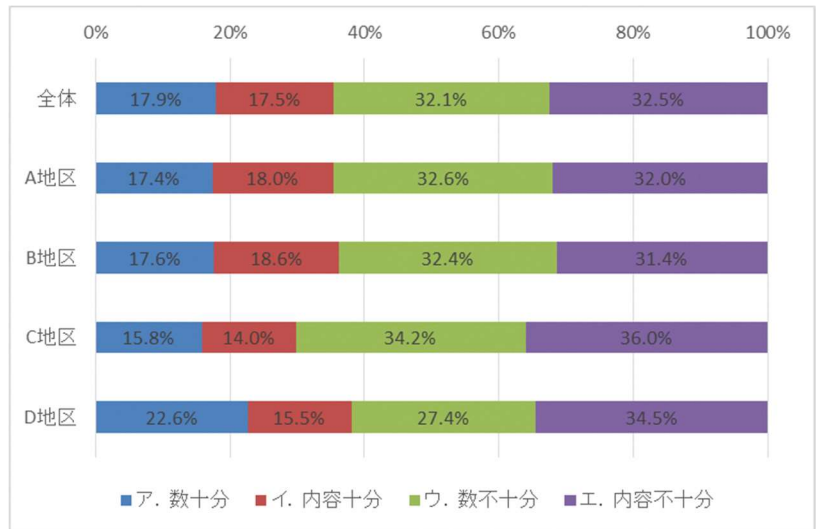
管理ボランティアへの参加は最も低いですが、緑のまちづくりでの協力意向では、参加活動型への参加意向も多くあり、公園来訪者に対する広報の充実などが必要と思われる。



●問 14 身近な公園の数や内容の満足度について

公園の数、内容ともに不十分とする各地区ともほぼ同様であるが、D 地区では数が十分とする割合が比較的多い。

年齢別では、数も内容も不十分とする層が多いが、20 代では内容が十分とする層が不十分とする層を上回っている。



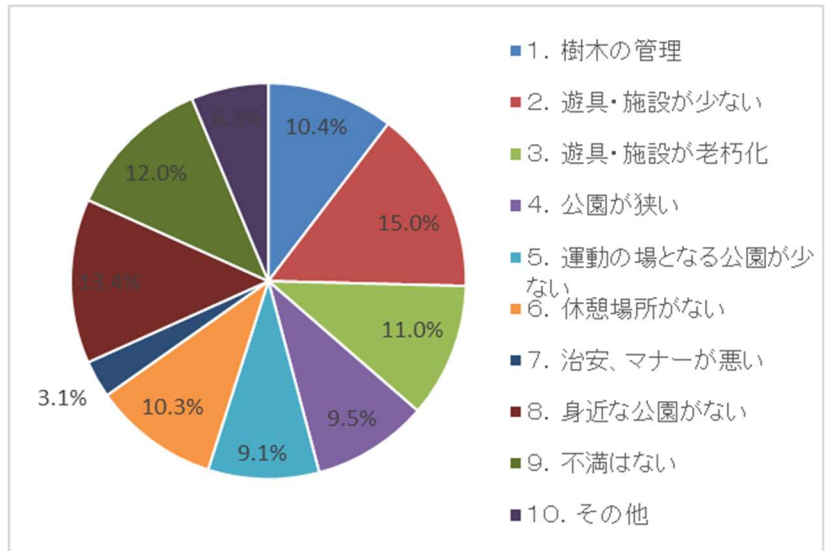
●問 15 身近な公園の管理について

管理については、「行政が業者やボランティア団体、NPO団体などの人材を活用して行う」とする回答が半数を超えている。次いで「公園の周辺に住んでいる人で」とする回答が約 2 割あり、行政が先導し、専門的なことは業者に軽易なことは団体や住民との協働による管理活動の仕組みづくりを作っていく必要がある。

●問 16 周辺にある公園について、不満に思うことについて (MA 2つ)

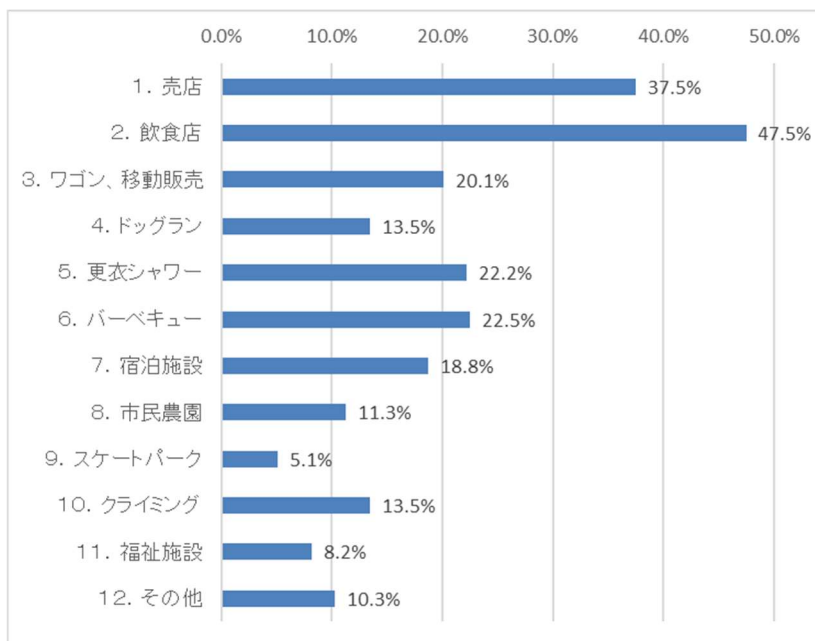
各地区共にほぼ同様の傾向である。突出して多いものはないが中でも最も多かったのは、「遊具・施設が少ない」ついで「身近な公園がない」である。

身近な場所で、子供を遊ばせたいというような意向が強いと考えられる。



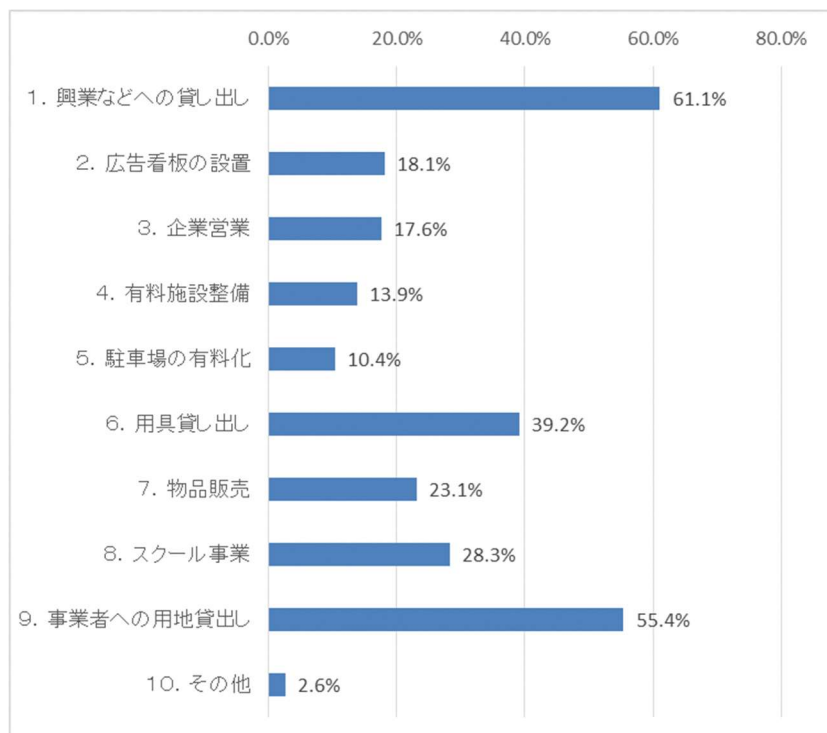
●問 17 大きな公園にあると良い、便利だと思う施設 (MA いくつでも)

「飲食店」が最も多く半数弱の人が回答している、次いで「売店」となっているほか、「ワゴンや移動販売」も2割程度の人が回答しており飲食・物販によるサービスの充実をもとめる声が高い。その他施設面への要求は多様である。今後、利用ニーズを踏まえた施設の整備などを検討し、より多くの市民に利用される公園づくりを進めていく必要がある。



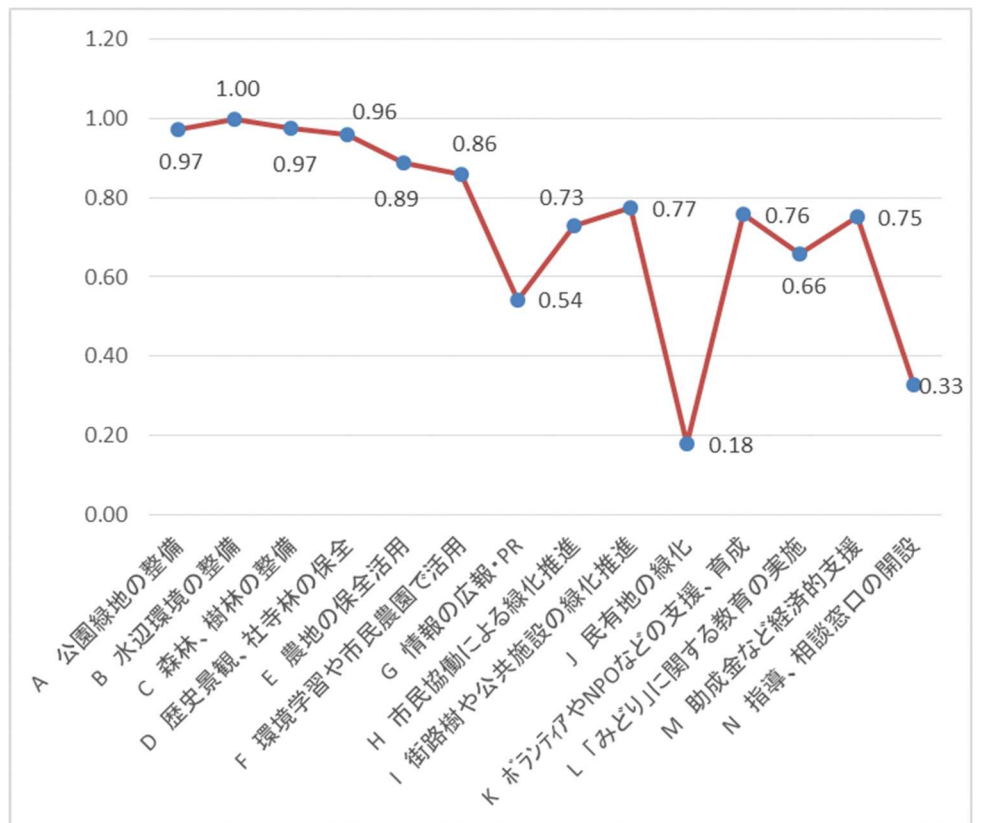
●問 18 公園における収益事業の活用について (MA いくつでも)

「興業への貸し出し」に約6割、「事業者への貸し出し」に5割以上が回答している。「用具の貸し出し」も約4割と比較的高い。他に「スクール事業」「物品販売など」利用促進、サービスの充実に係る事業を回答している。



●問 19 「みどり」を次世代に引き継ぐための市としての取り組みについて

全体的に+評価である。整備保全系で高い、ソフト系も比較的高いが民有地の緑化は低い評価となっている。行政が主導して整備保全、活用することが重要ではあるが、市街地の大半を占める民有地緑化の重要性などが理解されていないとも考えられ、緑化意識を啓発する情報や広報などの充実も求められると考えられる。



※数字は 重要を+1、ふつうを0、重要でないを-1 とし加重平均値

●自由意見について

・身近な緑について

公園については、子供と遊べる遊具や多目的トイレなど施設の充実を求める声がある。また、道路や施設の緑など生活の身近な場所や人が集まる場所に緑が少ないとする意見がある。

公園以外にも緑を身近に感じる場として緑の拠点となるような場を作っていくことも検討していく必要がある。

・「みどり」の管理について

雑草や街路樹の繁茂、枯損木の放置、視界の阻害など管理の不十分さを指摘する意見が多い。今後、効率的な維持管理を目指し、維持管理を低減できる適切な植栽手法や維持管理のあり方について検討し、実行していくことが必要と考えられる。

・樹林、森林について

荒廃を危惧する意見もいくつかあり、その対策が必要とも考えられるが、樹林地のほとんどは私有地であり、全ての樹林地を管理することは不可能であることから、緑地内の利用拠点の周辺や幹線道路の沿線など多くの人に目に付く場所の管理を進めるなど、重点的・効率的な管理を進めることも検討される必要がある。

・その他

公園やみどりに関する情報発信がないという意見がいくつかあることから、目的に応じた公園やみどりを活用したイベントの紹介など、利用者の立場に立った情報発信が必要と考えられる。